

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果について（速報）

義 務 教 育 課

1 調査の概要

（１）調査の目的

本調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てることや、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的として実施している。

（２）調査の対象

- ① 小学校調査 小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年
- ② 中学校調査 中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、中等教育学校前期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

（３）調査事項

- ① 教科に関する調査〔国語、算数・数学、英語〕

【出題内容】
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
【調査問題】
・上記①と②を一体的に問う。
・記述式の問題を一定割合で導入する。

※ 中学校英語は、文部科学省 CBT システム（MEXCBT）によるオンライン方式で実施。

- ② 質問調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

※ 質問調査は、文部科学省 CBT システム（MEXCBT）によるオンライン方式で実施。

（４）調査実施日

令和8年4月23日（木）

児童質問調査の実施日 令和8年4月24日（金）～5月8日（金）のうち1日（学校ごとに指定）

生徒質問調査及び中学校英語（「話すこと」を除く。）の実施日

令和8年4月20日（月）～4月23日（木）のうち1日（学校ごとに指定）

中学校英語「話すこと」の実施日

令和8年4月24日（金）または4月27日（月）（当日実施校）

令和8年4月28日（火）～5月29日（金）のうち1日（学校ごとに指定）

(5) 調査を実施した本県の県立及び市町立学校数、児童生徒数

	学校数	児童生徒数 (国語)	児童生徒数 (算数・数学)	生徒数 (英語)	児童生徒数 (質問調査)
小学校調査	147 校	7,280 人	7,285 人		7,294 人
中学校調査	65 校	6,939 人	6,943 人	6,967 人	6,963 人

(6) 調査結果の取扱いに関する配慮事項

調査結果の公表に関しては、各教育委員会及び学校等が、保護者や地域住民に対して説明責任を果たすことが重要である。一方、調査により測定できるのは学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要である。

なお、CBT で実施した「中学校英語」の調査結果については、全員が共通の設問に解答したものでないため、従来の平均正答率ではなく、国より提供された IRT に基づく結果を示している。

2 今後の予定

(1) 調査結果の分析

本年度の調査結果について、主に教科に関する調査結果に焦点を当てて分析し、その内容をまとめたリーフレットを各教員や市町（学校組合）教育委員会へ配付する。これにより、各学校の教育活動及び各教育委員会における教育施策の改善に資することを目的とする。なお、その他の事項については香川県教育センターホームページにて公開する。

(2) 分析結果の活用

調査結果の分析に基づき、児童生徒の学力向上に向けた授業改善等の取組みを推進する。

- ・ 学力向上モデル校事業等を通じた、学力の定着のための取組みの推進・展開
- ・ 「香川の教育づくり発表会」等の研修会を通じたモデル校の実践等の普及
- ・ 「令和 8 年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業づくり協議会」（年 2 回）での各学校における分析結果を踏まえた授業改善の方策やその成果等の協議
- ・ 「令和 8 年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた協議会」を通じた、小学校算数、中学校数学・英語の授業改善への支援
- ・ 各種研修会等における分析結果に基づく授業改善の促進

(3) 「活用ツール」の配付

自校のデータを表やグラフで可視化するツールを作成・配付する。これにより、県教育委員会が公開するリーフレット等のデータと自校のデータとを比較できるようにし、県内の小・中・特別支援学校が共通の指標で分析を行えるよう支援する。

(4) 各学校等における分析等への支援

各学校の実態に応じた調査結果の分析や、授業改善の手立ての検討を支援するために、学校等の要請に応じて指導主事を派遣する。

3 教科に関する調査の結果概況

(1) 全体的な状況について

【小学校調査】

小学校では、国語は、全国平均とおおむね同等である。算数は、全国平均を下回っている。

	国語			算数		
調査年度	R 6	R 7	R 8	R 6	R 7	R 8
県（公立） 平均正答率(%)	67	67	60	64	59	54
全国（公立） 平均正答率(%)	68 (67.7)	67 (66.8)	61 (60.9)	63 (63.4)	58 (58.0)	56 (56.4)
県と全国との差 (pt)	-1	0	-1	+1	+1	-2

【中学校調査】

中学校では、数学と英語においては、全国平均とおおむね同等である。
国語においては、全国平均を下回っている。

	国語			数学		
調査年度	R 6	R 7	R 8	R 6	R 7	R 8
県（公立） 平均正答率(%)	57	53	62	53	49	57
全国（公立） 平均正答率(%)	58 (58.1)	54 (54.3)	64 (63.9)	53 (52.5)	48 (48.3)	57 (57.0)
県と全国との差 (pt)	-1	-1	-2	0	+1	0

英語	生徒数	平均 IRT スコア
県（公立）	6,967 人	486
全国（公立）	839,203 人	499

IRT スコアを 1～5 の 5 段階に区切ったもの。3 を規準のバンドとし、5 が最も高いバンドとなる。
※今年度の中学校英語 IRT バンドにおける IRT スコアの区分で示している。

IRT バンド	1	2	3	4	5
IRT スコア範囲	～329	330～443	444～558	559～673	674～

※ 本速報では、国立、私立を除いた公立小・中・特別支援学校の結果を掲載している。

※ 中学校英語は「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の結果を掲載している。「話すこと」の結果は、9 月以降に提供される予定である。

(2) 学習指導要領の領域等の状況について〔全国（公立）との比較〕

① 小学校

【国語】

分類		区分	平均正答率(%)		
			県（公立） 平均正答率 (%)	全国（公立） 平均正答率 (%)	県と全国との 差 (pt)
学習指導 要領の 内容	知識・ 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	63.4	66.8	-3.4
		(2) 情報の扱い方に関する事項	53.9	52.3	+1.6
		(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	思考・ 判断・ 表現	A 話すこと・聞くこと	65.6	65.8	-0.2
		B 書くこと	47.3	45.7	+1.6
		C 読むこと	65.0	65.9	-0.9
評価の観点		知識・技能	60.2	62.0	-1.8
		思考・判断・表現	60.2	60.1	+0.1
		主体的に学習に取り組む態度			
問題形式		選択式	61.5	61.9	-0.4
		短答式	55.9	62.6	-6.7
		記述式	58.7	54.9	+3.8

○ 内容別に見ると「(2)情報の扱い方に関する事項」「B書くこと」で全国平均を上回り、「A話すこと・聞くこと」「C読むこと」はおおむね同等、「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」で下回っている。

評価の観点別に見ると、「知識・技能」で全国平均を下回り、「思考・判断・表現」でおおむね同等である。

【算数】

分類	区分	平均正答率(%)		
		県（公立） 平均正答率 (%)	全国（公立） 平均正答率 (%)	県と全国との差 (pt)
学習指導要領の 領域	A 数と計算	58.9	61.1	-2.2
	B 図形	50.6	55.3	-4.7
	C 測定	75.9	78.1	-2.2
	C 変化と関係	37.2	41.1	-3.9
	D データの活用	48.5	48.6	-0.1
評価の観点	知識・技能	56.7	60.1	-3.4
	思考・判断・表現	45.5	45.4	+0.1
	主体的に学習に取り組む態度			
問題形式	選択式	53.0	56.0	-3.0
	短答式	55.9	59.7	-3.8
	記述式	49.9	48.5	+1.4

○ 領域別に見ると、「Dデータの活用」で全国平均とおおむね同等、それ以外の領域では下回っている。

評価の観点別に見ると、「知識・技能」で全国平均を下回り、「思考・判断・表現」でおおむね同等である。

② 中学校

【国語】

分類		区分	平均正答率(%)		
			県（公立） 平均正答率 (%)	全国（公立） 平均正答率 (%)	県と全国との 差 (pt)
学習指導 要領の 内容	知識・ 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	61.8	63.0	-1.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	68.1	70.4	-2.3
		(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	思考・ 判断・ 表現	A 話すこと・聞くこと	63.2	63.9	-0.7
		B 書くこと	65.1	67.4	-2.3
		C 読むこと	56.3	59.7	-3.4
評価の観点		知識・技能	62.8	64.2	-1.4
		思考・判断・表現	61.5	63.7	-2.2
		主体的に学習に取り組む態度			
問題形式		選択式	70.8	72.7	-1.9
		短答式	54.7	55.8	-1.1
		記述式	43.0	45.5	-2.5

○ 内容別に見ると、「A 話すこと・聞くこと」で全国平均とおおむね同等、それ以外の内容で下回っている。

評価の観点別に見ると、「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに全国平均を下回っている。

【数学】

分類		区分	平均正答率(%)		
			県（公立） 平均正答率（%）	全国（公立） 平均正答率（%）	県と全国との差 (pt)
学習指導要領の 領域		A 数と式	67.6	67.8	-0.2
		B 図形	48.5	48.7	-0.2
		C 関数	53.3	54.8	-1.5
		D データの活用	54.0	53.5	+0.5
評価の観点		知識・技能	62.9	63.0	-0.1
		思考・判断・表現	38.2	39.1	-0.9
		主体的に学習に取り組む態度			
問題形式		選択式	59.4	59.3	+0.1
		短答式	64.0	64.2	-0.2
		記述式	38.2	39.1	-0.9

○ 領域別に見ると、「A 数と式」「B 図形」「D データの活用」で全国平均とおおむね同等、「C 関数」で下回っている。

評価の観点別に見ると、「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに全国平均とおおむね同等である。

【英語】 ここでは、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の3技能における公開問題（全16問）のうち、全員が取り組んだ問題の正答率を示す。

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の 領域			評価の 観点		平均 正答率 (%) 県（公立）	平均 正答率 (%) 全国（公立）	県と全国との差 (pt)	問題 の難易度
			聞くこと	読むこと	書くこと	知識・技能	思考・判断・表現				
1	注文の場面での店員と客の会話を聞き、客が注文したものを選択する	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	○※			○		57.6	60.2	-2.6	4
5	住みやすいまちづくりについての発表を聞き、話し手が最も伝えたいことを選択する	社会的な話題について、話を聞き、要点を捉えることができるかどうかをみる	ウ				○	51.0	55.6	-4.6	4
6	文章を読み、グラフの空所に入る学校行事を選択する	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、読むことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる		○※		○		64.0	67.3	-3.3	3
10 (1)	インターネットの使用に関する文章を読み、書き手が最も伝えたいことを選択する	社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる		ウ			○	41.7	47.5	-5.8	4
10 (2)	インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書く				ウ		○	24.4	27.8	-3.4	5
11 ①	与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる			ア	○		56.7	58.9	-2.2	3
11 ②					ア	○		49.9	52.7	-2.8	3

※「学習指導要領の領域」における「○」は、五つの領域別の目標に分類されない「知識及び技能」を示している。

※「問題の難易度」は5段階で表示している。5が最も高い難易度の問題を表している。

○ 領域別に見ると、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」で全国平均を下回っている。

評価の観点別に見ると「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに全国平均を下回っている。

(3) 無解答率について

小学校では、「無解答率が全国平均を上回った問題数」は算数の1問のみであった。中学校では、国語、数学でほぼ全ての問題において無解答率が全国平均を上回っている。

無解答率が全国平均を上回った問題数

小学校	調査問題数（問）	無解答率が全国平均を上回った問題数（問）
国語	13	0
算数	16	1

中学校	調査問題数（問）	無解答率が全国平均を上回った問題数（問）
国語	15	15
数学	16	15
英語	16*	7

※公開問題（合計16問）

※参考（国語、算数・数学…R7年度、英語…R5年度）

小学校	調査問題数（問）	無解答率が全国平均を上回った問題数（問）
国語	14	0
算数	16	0

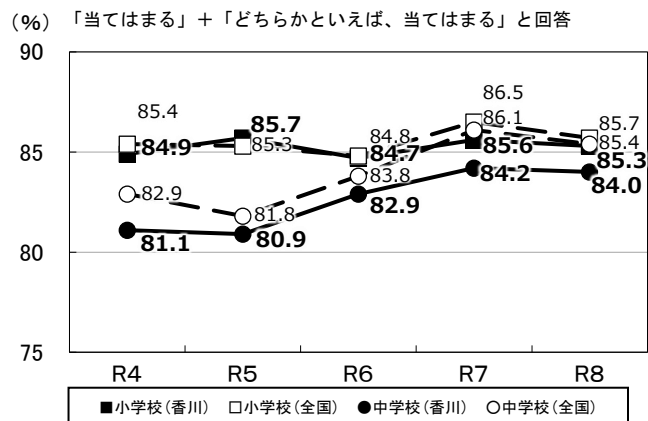
中学校	調査問題数（問）	無解答率が全国平均を上回った問題数（問）
国語	14	11
数学	15	10
英語	17	16

4 質問調査（児童生徒に対する調査）の結果概況

（１）学校生活について

「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国平均と同様に推移している。

□15/15 学校に行くのは楽しいと思いますか



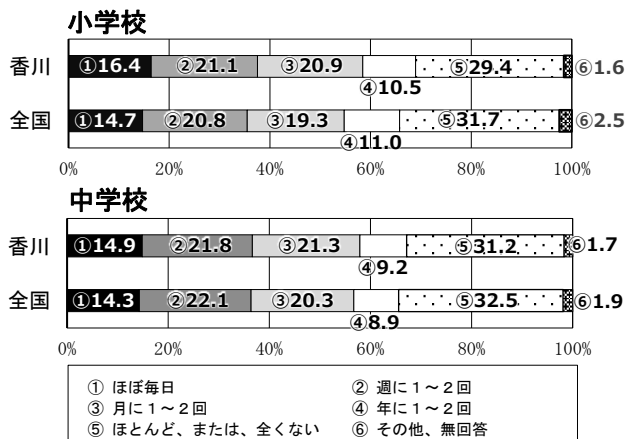
（２）自己有用感・心理的安全性等、向社会性について

心理的安全性に関わる「学校での悩みについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか」の質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校で全国平均を上回り、中学校でおおむね同等である。

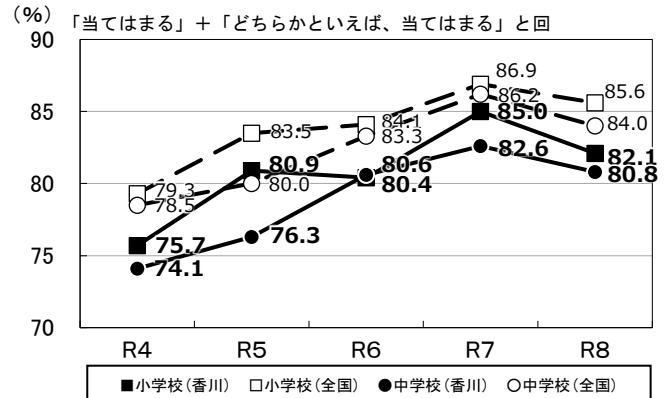
自己有用感に関わる「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国平均と同様に減少している。

向社会性に関わる「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国平均と同様に減少している。

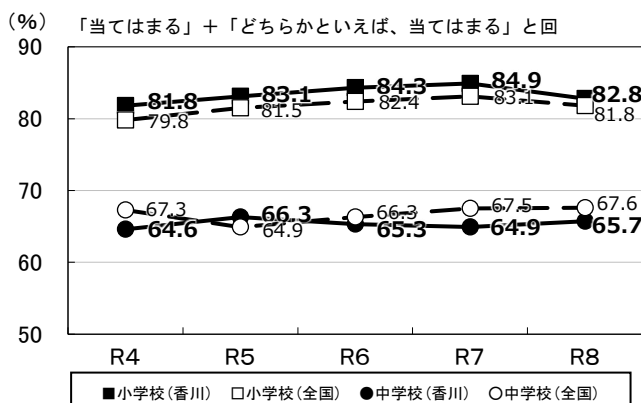
□7/7 学校での悩みについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか



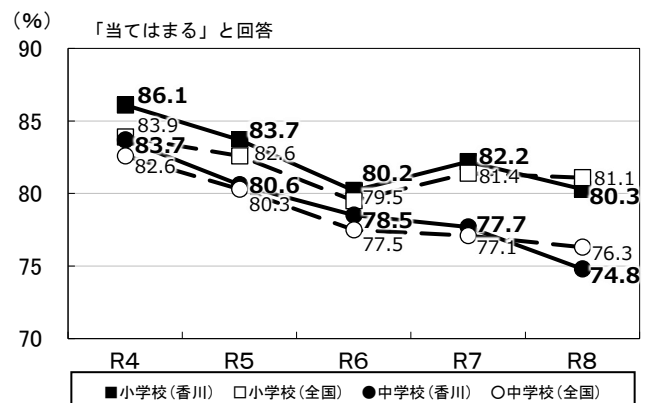
□8/8 自分には、よいところがあると思いますか



□10/10 将来の夢や目標を持っていますか



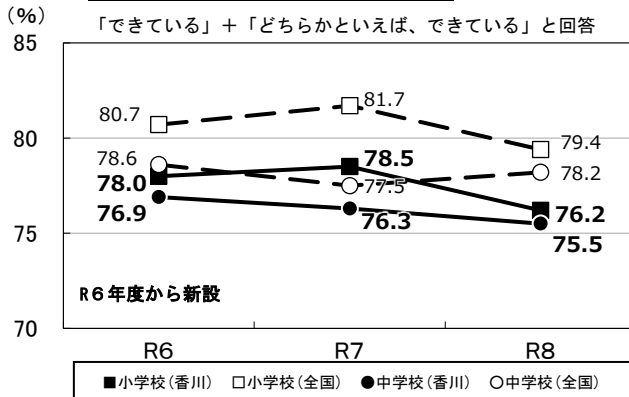
□12/12 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



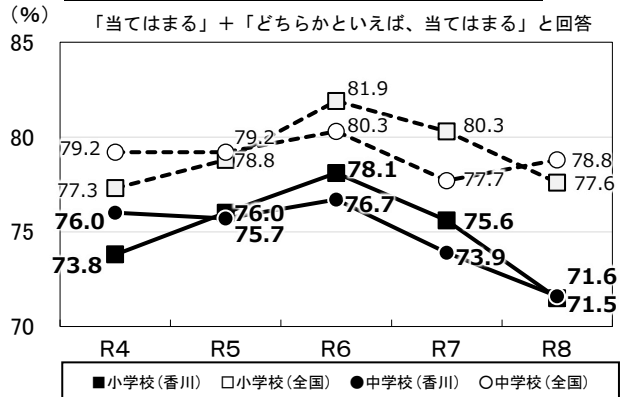
(3) 主体的・対話的で深い学び、学びの自己調整について

「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができますか」「5年生まで（1，2年生のとき）の授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに昨年度より減少している。

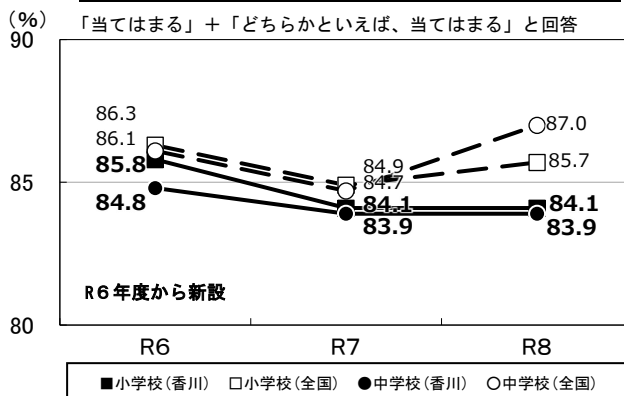
□22/22 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができますか



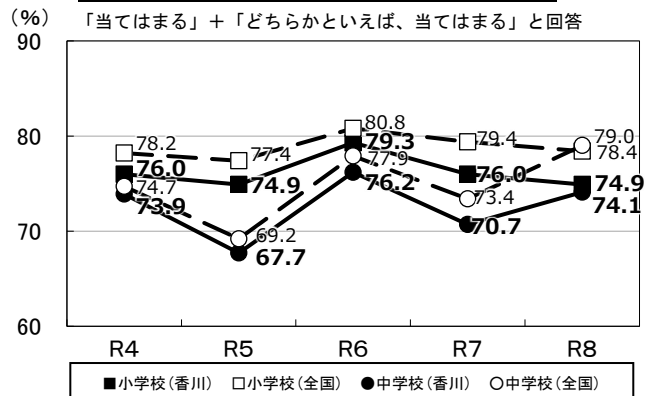
□39/39 5年生まで（1，2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



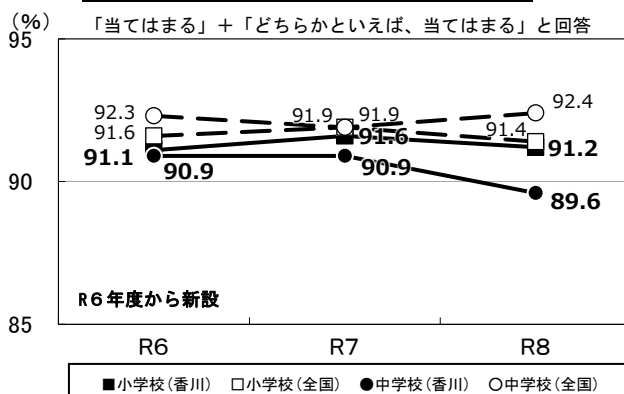
□42/42 学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか



□43/43 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか



□46/46 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



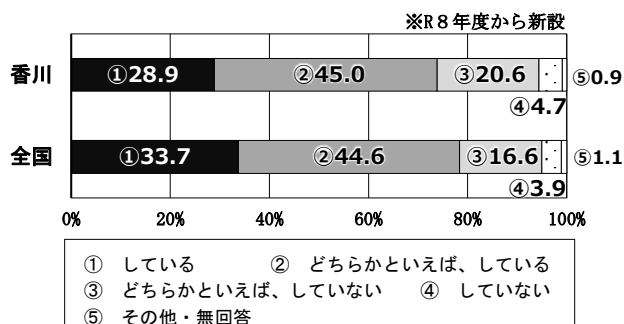
(4) 読解力について

小学校国語において、「授業で、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめていますか」の質問に、肯定的に回答した児童の割合は73.9%である。

中学校数学において、「文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができていますか」の質問に、肯定的に回答した生徒の割合は、61.2%である。

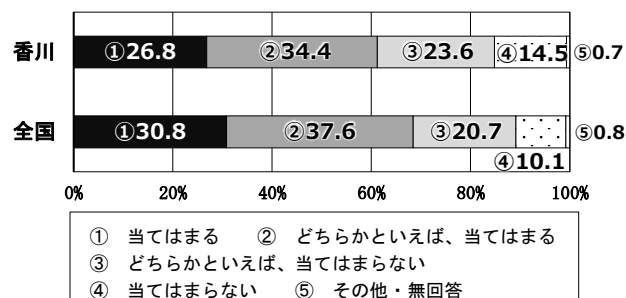
(小学校のみ)

□59/* 5年生までにうけた授業では、国語の授業で、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめていましたか



(中学校のみ)

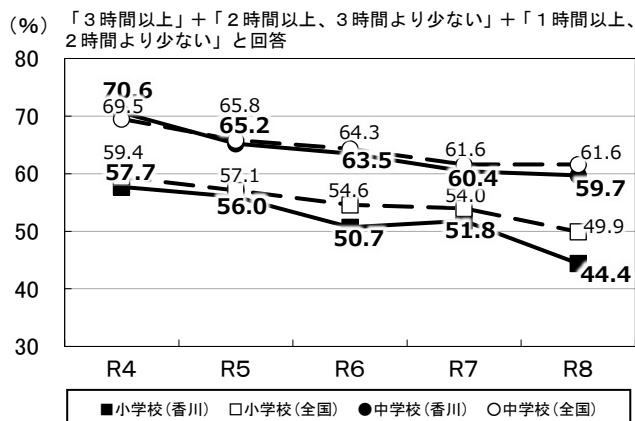
□*/67 1、2年生のときに受けた授業では、文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができましたか



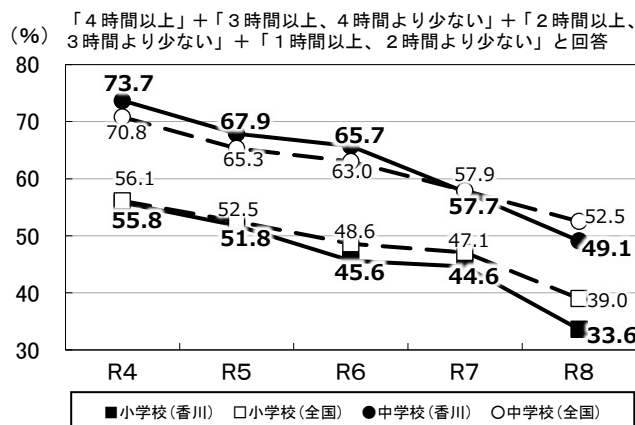
(5) 学習習慣について

普段（月曜日から金曜日）、土曜日や日曜日など学校が休みの日に、「1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国平均と同様に減少傾向が見られる。

□23/23 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



□25/25 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



(5) ICT を活用した学習状況について

昨年度までに受けた授業における ICT 機器の使用頻度についての質問に、「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した児童生徒の割合は、中学校において引き続き増加傾向が見られている。

ICT 機器で文章を作成したり、情報を整理したり、プレゼンテーションを作成したりするなど、情報活用能力についての質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国平均を下回っている。

□35/35 5年生まで（1，2年生のとき）に 受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか

(%) 「ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）」＋「ほぼ毎日（1日に1回く
らいの授業で活用）」＋「週3回以上」と回答

